

山口・小郡都市核づくりマスタープラン改定に係る骨子案(中間報告)

1 プラン策定の趣旨・改定の視点

■趣旨

本市は、県央部を圏域とする自立可能な広域経済・交流圏の形成等を通じ、その拠点機能等を担う「広域県央中核都市づくり」を都市政策の柱として、これまで積極的に進めてきたところである。

今後の人口減少・少子高齢社会において、県勢の発展をけん引し、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持していくため、県都、連携中枢都市、中枢中核都市の役割として、引き続き「広域県央中核都市づくり」を進めていく必要がある。

こうしたことから、山口・小郡都市核づくりマスタープランは、広域県央中核都市づくりを積極的かつ継続的に進めていくため、山口・小郡両都市核がもつ特性を踏まえた広域交流拠点の形成とともに生み出される好影響・好循環の対流型のまちづくりの実現により、圏域の更なる価値創造や経済循環を図る両都市核における都市整備のグランドデザインを示すものとし、あわせて、これまでの取組での成果や課題等を踏まえ、今後の環境変化や次世代の都市像等を見据えた長期的な視点でのまちづくりの指針とするものである。

なお、これらの目指すまちの姿や目標を明示することにより、行政、市民、民間事業者、大学等の多様な主体とまちづくりの方向性を共有するとともに、共創による取組へとつなげていく。

■改定の視点

- ・現行プランの成果の継続と課題の解決に向けた取組の推進。
- ・少子高齢化、人口減少社会の進展による様々な社会課題等が顕在化する2040年頃を見据えた対応や、人生100年時代に向け、誰もが生涯にわたって活躍できる地域社会づくりへの対応。
- ・大規模災害が懸念される中、自然災害等に対する防災、減災対策やエネルギーの効率的な利用による環境に配慮したまちづくりの推進。
- ・公共施設をはじめとした社会基盤等が更新時期を迎える中、人口減少社会に対応した持続可能な社会基盤整備や、連携中枢都市圏域の形成や中枢中核都市づくりなど東京一極集中の是正に向けた受け皿となる地方拠点の整備。
- ・自動運転をはじめとした、5G、AI、IoTなど市民生活や経済活動などのあり方に影響を与える革新的技術を社会に実装し、Society5.0時代を見据えた対応。
- ・人やモノ、情報等の円滑かつ活発な交流に向けた都市核間との連携強化や、他都市との広域的なネットワーク形成の推進。

2 プランの位置づけ・対象期間

広域県央中核都市づくりの推進

山口市総合計画
(H20年度～H29年度)

第二次山口市総合計画
(H30年度～R9年度)※10年間

現行の山口・小郡都市核づくりマスタープラン
(H20年度～)

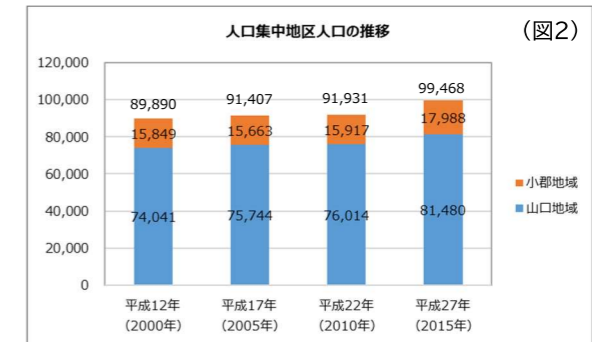
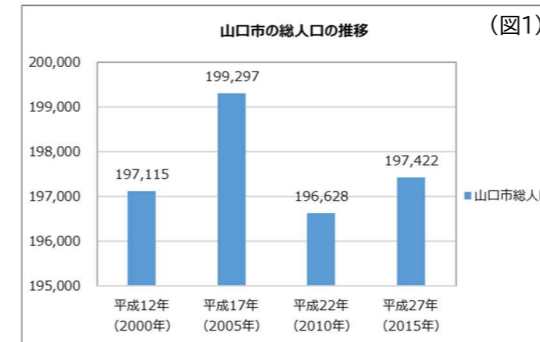
山口・小郡都市核づくりマスタープラン 改定版
(予定:R3年度～R22年度) ※20年間

※計画期間は20年間(2040年まで)とする。

3 現行プランの取組の成果

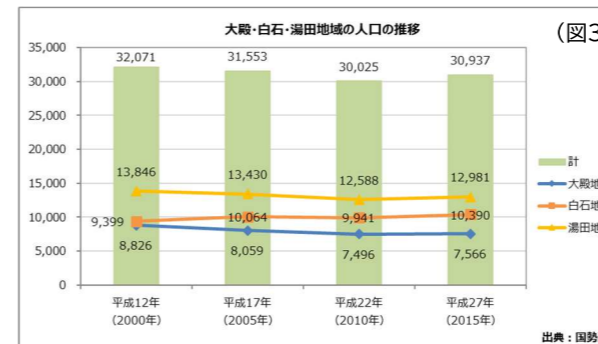
■本市全体

- ・定住人口は平成22年に減少に転ずるも、平成27年に再び増加するとともに、山口・小郡両都市核を含む人口集中地区人口については増加を続けている。(図1・2)



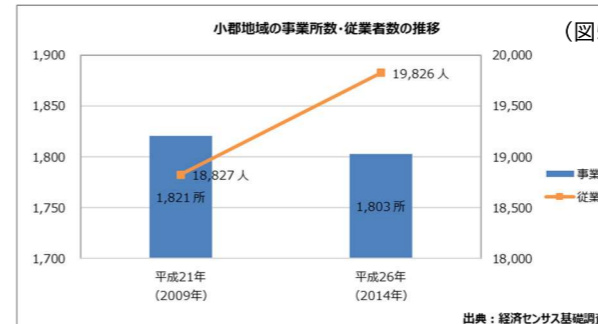
■山口都市核

- ・減少傾向であった、山口都市核を含む大殿・白石・湯田地域の人口は、平成27年に増加に転じている。(図3)
- ・湯田温泉の観光客数は、日帰客、宿泊客ともに概ね増加傾向にある。(図4)



■小郡都市核

- ・小郡都市核を含む小郡地域における従業者数は5年間で5%増加。(図5)
- ・JR新山口駅の利用者数は増加傾向にある。(図6)



- ・平成27年国勢調査において、本市全体の定住人口や山口・小郡両都市核を含む人口集中地区人口が増加。
- ・山口都市核について、定住人口や湯田温泉の宿泊客数などは概ね増加傾向にあることから、山口都市核の基本方向である「住みよさと創造が織りなす 文化交流拠点の形成」に向けた成果は順調といえる。
- ・小郡都市核について、小郡地域の従業者数やJR新山口駅の利用者数などは概ね増加傾向にあることから、小郡都市核の基本方向である「街の快適さと営みが広がる 産業交流拠点の形成」に向けた成果は順調といえる。

現行プランにおける両都市核づくりの取組の成果は着実にあらわれている

4 都市核づくりの基本方向

第二次山口市総合計画基本構想に掲げるまちづくりの基本方向と整合性を図り、山口都市核は「行政・歴史文化」機能、小郡都市核は「経済・ビジネス機能」と、それぞれの都市機能を特化させ、両都市核が互いの特性に応じて個性を磨き上げるという方向性のもと、都市部も農村部も共に発展するという好影響・好循環の対流型のまちづくりを進めることで、大都市圏への若者の流出に歯止めをかけるとともに、市内のあらゆる地域に安心して住み続けることができる、本市全体の持続可能な発展を目指す。

【山口都市核】

「山口県ナンバーワンの広域観光・文化創造拠点づくり」

- 各ゾーンが有する機能や地域資源、既存ストック等の魅力を更に高め、人の流れを誘引できる社会基盤整備や施設整備に取り組む。
- 人の流れを5つのゾーンに波及させるため、安全で回遊性の高い歩行者空間の整備や交通結節機能の整備、人々を惹きつける魅力的な空間整備等に取り組む。

好影響・好循環の
対流型のまちづくり

【小郡都市核】

「山口県ナンバーワンのビジネス拠点づくり」

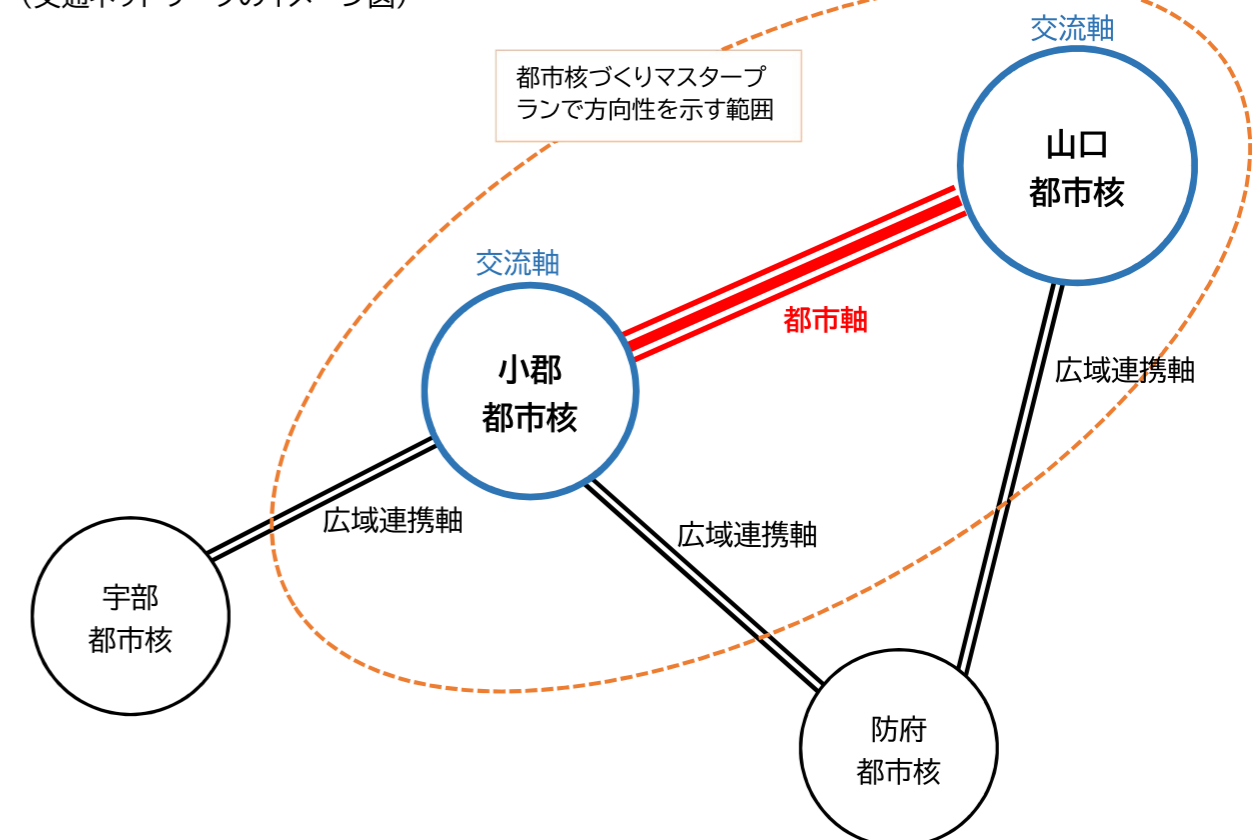
- 新山口駅や山口市産業交流拠点施設を中心に新たな交流や活力、賑わいを創出するため、県の玄関にふさわしい交通結節やアクセス機能の更なる強化に取り組む。

5 都市核における交通ネットワーク(交通軸)

現行プランでは、都市核における、人・モノ・情報等の交流を促進する交通ネットワーク(交通軸)として、明確な軸の設定がなかった。そのため、都市核における、人・モノ・情報等の交流を促進する交通ネットワークとして、以下のものを設定し、今後は交通ネットワークをもとに、人・モノ・情報等の円滑な移動を確保するための連携強化策等について整理・検討を進める。

交通ネットワーク (交通軸)	概要
都市軸	山口都市核と小郡都市核を結び、人の交流や経済活動など、本市全体の発展を支える交通軸。 ⇒主要幹線道路、鉄道
交流軸	都市軸や広域連携軸と各ゾーンを結び、各ゾーンへ人の流れを誘導する交通軸。 ⇒各ゾーンの外周道路
広域連携軸	本市と山口宇部空港をはじめとした他都市や山口県央連携都市圏域を結び、広域的な求心力や拠点性を高めていくための交通軸。 ⇒山口宇部道路、山陽自動車道、中国自動車道、新幹線、鉄道

(交通ネットワークのイメージ図)



【都市核連携の基本方向】

- 小郡都市核が山口県ナンバーワンのビジネス拠点として生み出す新たな交流や活力を、山口都市核が山口県ナンバーワンの広域観光・文化創造拠点として惹きつけ、山口都市核や本市全体の経済循環や価値創造につなげる。
- 行政、歴史文化、商業、観光資源などを有する山口都市核内の5つのゾーンで互いに対流することで、山口都市核全体の魅力を高めるとともに、小郡都市核へ人の流れを生み出し、更なるビジネス機能を発揮させる。
- 小郡都市核のアクセス性、交通結節機能を生かし、宇部市や防府市などの山口県央連携都市圏域との連携を図り、役割分担のもとで高次都市機能の集積を図る広域県央中核都市づくりを進める。

6 対象エリア(ゾーニング) 詳細:別紙1~2

都市核づくりの進捗状況や上位・関連計画との整合性を踏まえ、対象エリアのゾーニングを設定する。

7 各ゾーンの現況・課題及び取組の方向性

各ゾーンの現況・課題に対する取組の方向性を設定し、今後、取組の方向性に基づき、具体的な取組を検討する。

	ゾーン名	主な現況・課題(市民ワークショップや専門家からの意見・提案等)
山口都市核	亀山周辺ゾーン・中心商店街ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 市役所と市民会館をはじめ、周辺施設や公園等との連続性・一体性に欠けている。 市役所までの歩行者動線、車両動線が複雑である。 パークロードから中心商店街への連続性に欠けている。 駅通りの歩道が狭い。また、段差が歩行の支障となっている。 駅通りやアーケード街において空きテナント(空き店舗)が多く、また、テナントの老朽化も進んでいる。 市民会館前、早間田交差点において4方向に平面交差が出来ないため、亀山周辺ゾーンと中心商店街ゾーンの連続性や歩行者動線が分断している。 <p>【以下、大内文化ゾーンとの共通の現況・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政、歴史文化、商業等の機能が歩いて行かれる範囲にコンパクトに集積しているものの、連続性・回遊性に欠けている。
	大内文化ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 快適にまちあるきをしてもらいたいが、自動車の通過交通が多く、快適に歩行することができない。 大内文化ゾーンと中心商店街ゾーンの連続性・回遊性に欠けている。 一の坂川交流広場の賑わいが中心商店街に波及していない。 南北に走る、「一の坂川」、「萩往還や石州街道」、「パークロードから駅通り」の3つ回遊軸を生かしきれていない。
	情報・文化ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設や公的空間等で会議・レセプションを開催する「ユニークベニュー」の空間として活用したいが、給排水設備が整っていない。 小郡都市核から山口都市核へ人の流れを誘引するため、山口市産業交流拠点施設と一体となったコンベンションやイベント誘致が必要。 済生会山口総合病院前の交差点周辺について、右折車両が滞留し渋滞している。また、歩道の段差が歩行の支障となっている。 中央公園での創出された賑わいを、「亀山周辺・中心商店街ゾーン」をはじめ、「大内文化ゾーン」や「湯田温泉ゾーン」に波及させる仕掛けや動線整備が必要。 山口情報芸術センターや中央図書館、情報関連産業、デジタルコンテンツ等の教育的機能などが立地しており、高い創造性などの情報文化機能を有している。
	湯田温泉ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 小郡都市核から山口都市核へ人の流れを誘引するため、湯田温泉ゾーンの中心である県道204号線へアクセス性を高める道路整備が必要。 多世代交流・健康増進拠点施設周辺の歩行者動線及び車両動線の整備が必要。また、拠点施設の賑わいを温泉街等へ波及させる仕掛けや動線整備が必要。 そぞろ歩きしても温泉風情を感じることが出来ない。また、ゾーン内の道路が自動車の抜け道利用となっており、快適に歩行することができない。 温泉街エリアと住宅地エリアが混在していることから、観光客と住民と双方に目を向けた取組が必要。
小郡都市核	市街地形成ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 山口市産業交流拠点施設により創出された新たな交流や賑わいを山口都市核へ誘引するための連携強化が必要。 旧商店街に空き店舗が目立つため、山口市産業交流拠点施設供用開始後、駅前通りを軸とした東西の回遊性を高めるとともに、人の流れを呼び込む仕掛けや動線整備が必要。
	業務集積ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 低未利用地(駐車場等)が多い。 土地利用が進んでおり、大規模な開発は難しく、引き続き営業所等の集積を促進。

取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 新本庁舎整備による波及効果を高めるため、周辺街区やアクセス動線を一体的にとらえた再生整備の取組を進める。 駅通りやパークロードを軸とした南北間、県道204号線を軸とした東西間を安全で快適に移動・回遊できる動線整備や空間づくりを進める。 空きテナント(空き店舗)の有効活用や老朽化したテナントの更新などにより、多様な人々を惹きつけ、新たな交流や活動の機会を創出し、中心市街地における更なる賑わいを創出する。 <p>【以下、大内文化ゾーンとの共通の取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政、歴史文化、商業等様々な機能がコンパクトに集積している立地特性を生かし、各機能等の相乗効果が発揮され、更なる賑わいの創出や価値創造につながる、まちなかの回遊性・滞留性を向上させる取組を進める。 隣接した3つのゾーンを居心地が良く歩きたくなるまちなか空間づくりに重点を置いた取組を進める。
<ul style="list-style-type: none"> 歴史文化資源の集積やホテルが飛び交う一の坂川等の自然、古くからの通り名が残る街路や旧街道沿いの町家形式の建築物等、本市が誇る風情ある街並みを最大限に生かし、これらの景観の保全とともに、新たなモビリティの活用も見据え、観光客も住民もゾーン内を安全で快適に移動・回遊できる動線整備や空間づくりを進める ゾーンの賑わいを周辺ゾーンへ波及させるため、「一の坂川」、「萩往還や石州街道」、「パークロードから駅通り」の3つの回遊軸を生かした歩行者ネットワークの形成を図る。
<ul style="list-style-type: none"> まちなかに位置する中央公園の立地特性を生かし、公共空間の多様な活用による新たな賑わいを創出する取組を進めるとともに、創出された新たな交流や賑わいを周辺ゾーンへ波及させる連携の仕掛けづくりや動線整備を進める。 山口情報芸術センターや中央図書館、情報関連産業、デジタルコンテンツ等の教育的機能が集積する多様な学びの場に、市内外から多くの人々が惹きつけられ、訪れやすい空間づくりを進める。
<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設をはじめ、会議室や飲食施設など優れたコンベンション機能を有する都市型温泉地としての湯田温泉の特性を生かし、小郡都市核で生み出された活力や賑わいを誘導するための交通結節機能やアクセス性の強化を図る。 多世代交流・健康増進拠点施設によって生み出される交流を、周辺へ波及させる連携の仕掛けづくりや動線整備を進める。 温泉街エリアと居住エリアが混在するという特性を生かし、観光客と住民の双方にとって魅力のある空間づくりを進める。 湯田温泉駅から温泉街、多世代交流・健康増進拠点施設を安全で快適につなぐ歩行者ネットワークの形成を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 広域交通結節の優れた立地特性を生かし、山口市産業交流拠点施設により創出された新たな交流や賑わいを、駅周辺はもとより広域に発揮させる取組を進める。 ビジネス拠点機能を有する小郡都市核と、広域観光・文化創造拠点機能を有する山口都市核の相互の連携を強化し、相乗効果を発揮する取組を進める。

具体的な取組

今後検討を進める

8 今後のスケジュール

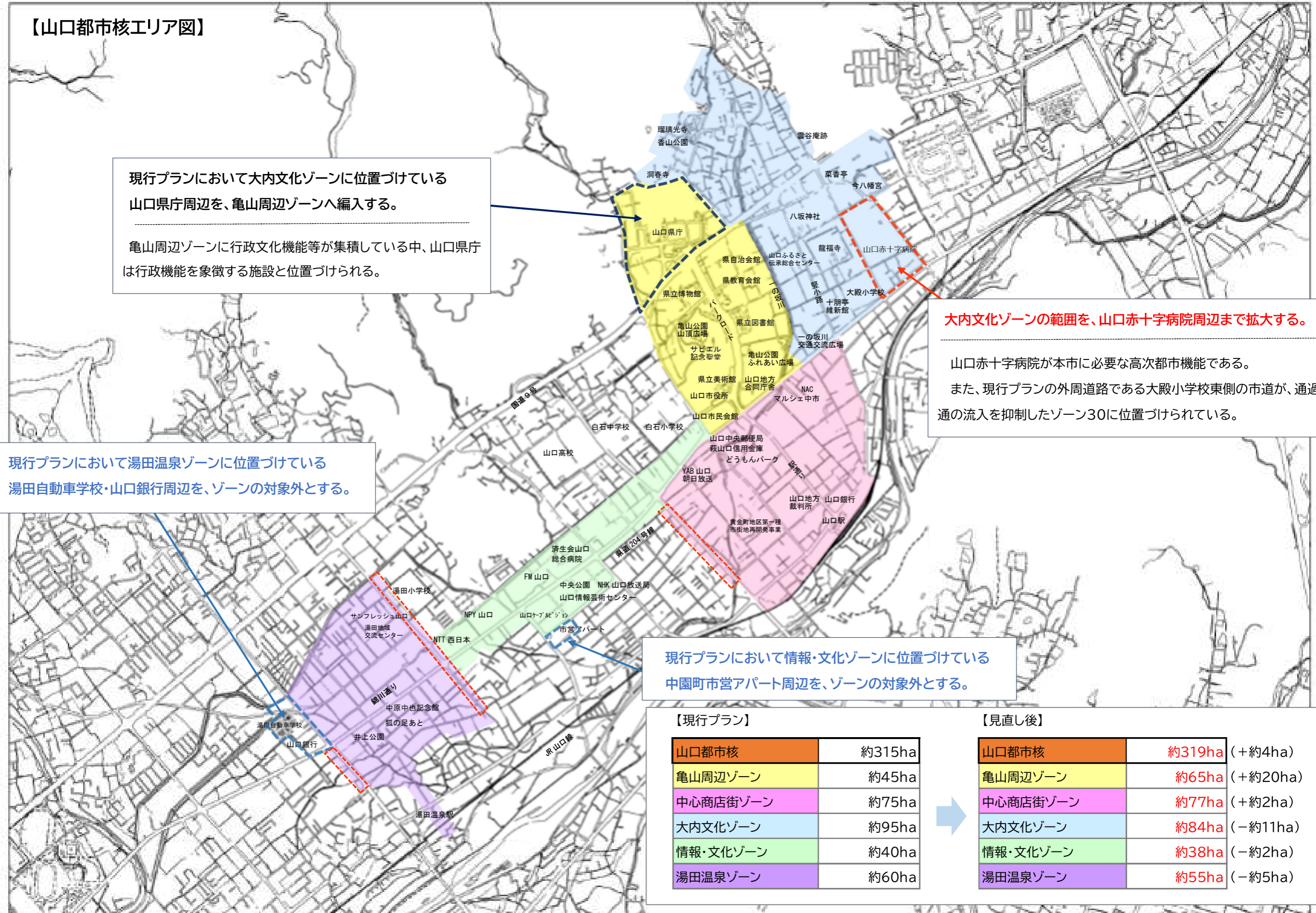
計 画	令和元年度			令和2年度															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
山口・小郡都市核づくり マスタープラン 改定版	基本構想骨子策定			案策定												策定			
		3月議会				6月議会				9月議会				12月議会				3月議会	
【亀山周辺ゾーン】 新本庁舎整備	基本設計・実施設計策定																		
【中心商店街ゾーン】 第3期中心市街地活性化基本計画	基本計画策定(令和3年度事業実施予定)																		
【湯田温泉ゾーン】 多世代交流・健康増進拠点施設整備	基本計画策定					基本設計策定													
【市街地形成ゾーン(小郡都市核)】 山口市産業交流拠点施設整備	工事(令和3年度供用開始予定)																		

※新本庁舎整備(亀山周辺ゾーン)、第3期中心市街地活性化基本計画(中心商店街ゾーン)、多世代交流・健康増進拠点施設整備(湯田温泉ゾーン)、山口市産業交流拠点施設整備(小郡都市核)など、関連計画や関連事業等との整合性を図り、令和2年度末を目途に改定版を策定する。

■その他(検討の場)

- ・都市計画の専門家、都市計画・建築関係を専攻している大学生、市民によるワークショップを実施。
 - ・「亀山周辺ゾーン・中心商店街ゾーン・大内文化ゾーン」:3回(R1.7月~9月)
 - ・「湯田温泉ゾーン」:3回(R1.7月~9月)
 - (※小郡都市核において、H28.2月~3月にJR新山口駅北地区を中心とした「まちなみ景観市民ワークショップ」を2回開催。)
- ・都市計画の専門家との協議:6回(R1.12月末現在)
- ・庁内関係課によるワーキング:8回(R1.12月末現在)

【山口都市核エリア図】



現行プランにおいて大内文化ゾーンに位置づけている山口県庁周辺を、亀山周辺ゾーンへ編入する。

亀山周辺ゾーンに行政文化機能等が集積している中、山口県庁は行政機能を象徴する施設と位置づけられる。

大内文化ゾーンの範囲を、山口赤十字病院周辺まで拡大する。

山口赤十字病院が本市に必要な高次都市機能である。また、現行プランの外周道路である大殿小学校東側の市道が、通過交通の流入を抑制したゾーン30に位置づけられている。

現行プランにおいて湯田温泉ゾーンに位置づけている湯田自動車学校・山口銀行周辺を、ゾーンの対象外とする。

現行プランにおいて情報・文化ゾーンに位置づけている中園町市営アパート周辺を、ゾーンの対象外とする。

【現行プラン】	面積	【見直し後】	面積	変動
山口都市核	約315ha	山口都市核	約319ha	(+約4ha)
亀山周辺ゾーン	約45ha	亀山周辺ゾーン	約65ha	(+約20ha)
中心商店街ゾーン	約75ha	中心商店街ゾーン	約77ha	(+約2ha)
大内文化ゾーン	約95ha	大内文化ゾーン	約84ha	(-約11ha)
情報・文化ゾーン	約40ha	情報・文化ゾーン	約38ha	(-約2ha)
湯田温泉ゾーン	約60ha	湯田温泉ゾーン	約55ha	(-約5ha)

